

### 語り継ぐ会で新たな学び

8月23日(日)、坂戸駅前集会施設で開催した「戦争を語り継ぐ 子や孫の世代に」で、日本軍「慰安婦」裁判と支援に深く関わってきた梁澄子さんが「日本軍『慰安婦』とされた女性たち」と題して話しました。軍に関わり監禁状態にして強姦を繰り返したのに、「慰安婦」問題が無かったかのような態度をとる安倍内閣の欺瞞性を、資料や裁判記録から

暴き出しました。

長期に渡る被害で、人を信じられず、ましてや自分を信じられず、固

い殻を被っていた被害者が、たくさんの支援を受ける中で語り出し、裁判に負けても「オレの心は負けてない」。支援者もこの運動の神髄を発見し、支援活動が被害者も支援者も共に成長しあうドラマとなりました。

被害者たちの「このような被害を二度と起こさせないためには、戦争はダメだ」と言う言葉が重く心に響いた会でした。(詳しくは、次号で報告します)



### 「原爆絵画展」満席に

北大塚 武井 誠

8月1日～2日に開催された「第23回ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展」には、2日間で約300人の方が訪れてくださいました。特に2日に行なわれた「特別企画」は、会場が満席となり、展示物を移動して席を確保しなければならないほどでした。

「国の交戦権は、これを認めない」ストップ！戦争法

特攻隊員の生き残りである沖松信夫さんのお話。その前後には、松岡武司さんと「あじさいの会」さんの、沖縄戦をテーマとした平和紙芝居。戦争の実態に肉迫したメッセージと、真摯な「語り」。失礼なたとえになりますが、パンも具も、ここでしか味わえない、すばらしいサンドイッチでありました。



私もスパイスとして、『芭蕉布』と『青い空は』の2曲をギターで伴奏しながら、観客の皆さん

と共に心を込めて歌いました。

しかし、なぜ例年の何倍もの観客数となったのか、実行委員もびっくりしているというのが、正直なところ。

私は、毎年「行こうか、どうしようか」と迷われていた方々の多くが「今年は、行こう！」と思われた、その決断の積み重ねなのではないかと思っています。言うまでもなく、その背景にあるのは昨今の政治状況、戦後80年はないのではないかという不安と、怒りです。



核と人類は共存できない。

どう取りつくろおうとも、戦争は絶対悪である。

若者を戦場へ送ることは、絶対に許さない。

今は、絵画や紙芝居、講演者からのメッセージを受け止め、戦争で亡くなられた方たちの無念さに思いをいたし、共に行動する正念場なのだと思います。

## 坂戸の戦跡めぐり

日時 10月18日(日)13時～17時  
集合 中央公民館2階学習室  
コース 市内に点在する戦跡を、徒歩と車でまわります(詳細は裏面で)

# 戦後70年の戦争展

中小坂 塘永真里人

「坂戸市平和のための戦争展」に、九条の会さかどをはじめ、各方面からのご指導・ご協力に感謝申し上げます。

坂戸市平和のための戦争展は、8月11日・12日、坂戸市役所ロビーで「原爆と人間 戦時パネル」を展示し開催しました。

「戦争法制」が国会審議中でもあり、市役所来庁の方々の関心もいつもの年より高く、「この写真の兄ちゃんと同じ歳だよ」と涙ながらに話しかけてこられたり、市役所3役の方もパネルを喰い入るように見入っていました。

「あなたは戦争法草案を、どう思いますか」との問いには、反対72、賛成12、わからない4のシールが張られました。

「核兵器禁止署名」22筆。

「戦争法草案クイズやってみよう」には、ご夫婦で顔を見合わせて試したり、少なくない方々が、クイズ用紙を持ち帰っていました。



「被爆70年、核兵器全面禁止の転機に」と開催された「原水爆禁止世界大会」に坂戸市から坂谷くみ子さんが参加され、

来たる9月6日(日)午後2時から坂戸駅前集会施設で、その報告会が開かれます。

ぜひご参加ください。

## 「安倍さん」とは呼びたくない

緑町 今野 強

俳人の金子兜太さんの書かれた「アベ政治を許さない」の筆文字書体が大活躍中である。家に掲げている方も少なくない。なぜ安倍でなくアベなのかについて金子さんは「漢字を使うのがもったいない」と述べておられる。今年5月3日の横浜で行なわれた憲法大集会であの温和な大江健三郎さんが、初めて公の場で安倍首相を「安倍」と呼び捨てにされた。よほどの思いであったのだろう。

かつて故串田孫一氏(随筆家/詩人/哲学者)が「不沈空母」発言の中曽根首相がテレビに出てくると、腹立ちを覚えてテレビをスリッパで叩いていたという。



戦後政治の総決算を掲げて登場した中曽根内閣は、民主主義を敵として、その擁護者である闘う労働組合を目の敵にした。膨大な国鉄の所有地を「民活」で企業の儲けの対象にした「国鉄解体」は、「国鉄労組解体」でもあった。その中で悩み苦しんだ国鉄労働者の自殺は200名を超えた。

その頃は公労協という国鉄、郵政、電電など三公社五現業の労組で組織された連合体があった。郵政に勤めていた私はそんな関係もあって国鉄の友人たちが多くいた。ストライキ支援などよく応援しあったものだ。国鉄労働者の自殺の知らせを聞くたびに涙したものであった。その当時中曽根首相を「中曽根さん」などと呼ぶ者は私の周りには全くいなかった。

さて、安倍内閣の暴挙は目に余るものがある。麻生副総理を始めとした取り巻きの言動もこれまたひどすぎる。秘密保護法で情報を統制して、秘密を漏らすこと、秘密を聴きだすこと、その秘密を報じることが刑罰の対象にされるのだ。

改めて語るまでもないが集団的自衛権行使で憲法が葬られようとしている。治安維持法的な法律が芽を吹こうともしている。そうなったらかつて我らの先人たちが徹底的に弾圧をされた戦前の社会とどう違うのだろうか? 恐怖がよぎる。その元凶は申すまでもない「アベ」なのである。

私はヒステリックに安倍首相を安倍と呼び捨てにするべきと言っているのではない。総理なり首相なりの呼称があるのだからそう呼ぶべきと思う。安倍暴走に危機感を感じる人々、それも平和運動などに一生懸命な方々の中から「安倍さん」と呼ぶ声を聴くと私はたまらなく悲しく憤懣やる方なしの思いになってしまうのである。眦(まなじり)を上げて「アベ政治」と対決したいものだ。

## 戦跡めぐりへのお誘い

千代田 大久保俊秀

戦前坂戸には、陸軍坂戸飛行場、高萩飛行場の本部や兵舎、風船爆弾工場等がありました。軍事都市だった坂戸には、現在でも様々な戦跡が残されています。

今年の「坂戸の戦跡めぐり」では、軍事基地が造られたため被害を被ったところや悲劇のあったところなど、点在する戦跡を徒歩と車でまわります。

郷土の歴史を学びつつ、平和への想いを新たにしてみませんか。

- 日 時：10月18日(日)13時30分～17時
- 場 所：坂戸市中央公民館学習室B集合・解散
- 申込み：先着20名(栗原 049-283-4723)
- 締切り：10月14日(水)

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

9月24日(木)10時～12時、10月22日(木)10時～12時  
北坂戸出張所内「坂戸市民民活動交流フロア」会議室  
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)